みんなの広場

ところざわの暮らし 今昔 ❶

八十八夜の別れ霜～田仕事の開始～

五月の風薫る晴天を「五月晴れ」といいます。五月を「さつき」というのは、旧暦五月の別称だからです。旧暦五月は今の六月ごろにあたり、日本列島は梅雨に入り田植えの季節です。「五月晴れ」とは、梅雨の合間のつかの間の快晴のことをいいます。

新暦の五月初旬、八十八夜を過ぎると遅霜も降りなくなり、農作業が本格的に開始されます。八十八夜は、立春から数えて八十八日目をいい、農作物の種まきの目安にされます。

稲作の準備も八十八夜を目安に開始されます。所沢市内にも、かつては柳瀬川や東川に沿った低地に田んぼがたくさんありましたが、今ではわずかに山口地区に残るだけになりました。

所沢の田んぼは、狭山丘陵や台地に挟まれた細長い谷にあり、「谷津田」などと呼ばれていました。一年中、水がかれることがない湿田が多く、「底抜け田んぼ」といわれ、腰まで入ってしまう深田もありました。

稲作に必要な水は、丘陵や台地の裾からわき出す清水や天水、あるいは小さな川を堰き止めてたまった水を田に引き入れて使われました。川に堰を作ることを「堰普請」といい、田を耕作し、同じ水を使う人たちが共同で堰を築きます。

稲の苗は苗代で育てられます。苗代を作るための「田うない（田の耕起）」は、人力で行われました。マンガという道具で土を起こし、土の塊を小さく砕いて平らにならすにはエブリという道具を使いました。（大舘）

◎「ところざわの暮らし今昔」は、市内在住の大舘勝治さん（さいたま民俗文化研究所所長）、宮本八惠子さん（日本民具学会会員）のお二人に連載していただきます。今後もお楽しみに！

と こ と こ 町内会めぐり

【松井地区・松郷町内会】
～松郷さくら祭りはあざやかに～

松郷町内会は、松井地区の北東部に位置し、地区内を東川が横断しています。「東川を愛する会」の清掃努力もあって流水の透明度も増し、７月には「川祭り」で子どもの声があふれます。川沿いの桜並木の下には、新潟県山古志村（現長岡市）から送られ、この川で育った鯉が元気に泳いでいます。

今年も、桜前線の北上にあわせて４月３日から、松郷町内会、東川自治会、親和会、愛宕山自治会、県営松郷団地自治会、松郷公民館の６団体が、「松郷さくら祭り」を共同で開催しました。「桜まつりフォトコンテスト」には、たくさんの応募がありました。

７月末開催の「納涼盆踊り大会」も６団体共催です。地域の子どもを交えた和太鼓の演奏、ヨサコイソーランの群舞が大人気です。

「環境美化の日」には、野球チーム「リトルライオンズ」の少年少女の参加が定着しています。また、自主防災活動の一環として、炊き出し訓練の実施、救急救命講習の受講等、町内会活動は多岐に渡っています。そして、防犯活動では、小・中学校が発信情報を受けての「一声・声かけ運動」の実施や、各団体によるパトロール活動を通しての連携を心がけています。

町内会にとって大切なことは、活動を身近なものにすることです。そのため、会報を毎月発行し、活動内容の充実を図っています。

街の写真館

▶市立中富小・富岡小と三芳町立上富小の子どもたちが、三富新田開拓当時の村を再現しました。「三富新田模型完成式」。３月10日㈭／中富小学校

◀気軽に立ち寄れる農産物直売所・とことこ市がオープン。「新鮮で安全・安心な高品質の所沢産農産物」はいかがですか？
３月28日㈪／とことこ市

▲大空に向かって飛んでいけ！桜のにぎわいはありませんでしたが、子どもたちでにぎわう公園にのどかな春を感じた「市民文化フェア」。
４月２日㈯・３日㈰／所沢航空記念公園

はつらつ 野老（ところ）っ子

「食卓を楽しむすばらしさ」を伝えたい

増田　徳（とく）さん（西住吉在住）

「おいしい！先生、ぜひ教えてください」。手料理を味わった着物教室の生徒たちにせがまれ、増田さんの料理研究家としての人生がスタートしました。

料理研究家の第一歩は、生徒に教えるために本やテレビからの情報収集と簡単に作るための研究。もともと、料理を作ることに面倒さを感じたことはなく、自らが起こしたファッション関係の会社では、従業員たちに生まれ故郷である信州の名物「おやき」を作ったり、手料理を振る舞ったりしていました。

数々の研究を積んだ後に、始めた料理教室。普通の料理教室とは違い、会食を楽しむことが一番のねらい。食材を味わい、食卓をゆっくり楽しむ。食を通じて、忘れがちな空間を味わうことができるのです。「食卓が楽しいから会話も弾む。こんな空間がどの家庭にも存在するといいですね」。

「料理をしながらアイデアが沸いてくる」。ちょっとした工夫から楽しさが生まれるそうです。「アルミ箔で覆った食材をフライパンで焼くと、アルミ箔がパンパンに膨らむ。食べるときにてっぺんを破ると蒸気がパーッと噴き出す。作るときも食べるときもわくわく感いっぱいです」と、教室での様子を語ってくれました。

食材を無駄にしていたご自身の反省から、「食材を無駄にしないことを伝えたい」。そして、「ひとつまみの量を指三本で量る感覚なども教えたい」と、思いは募ります。

増田さんの料理は、味はもちろん、配色にもこだわりがあり、多彩な色の使い方が印象的です。それは、ファッション関係の仕事の経験が生かされているのでしょう。そして、増田さん宅に人が多く集まるように、食材も旬の野菜を中心にたくさん使われています。今後は、所沢産の農産物も取り入れていくとか。

「自宅を憩いの場所にしたい」という増田さんの思いは、いつまでも続くことでしょう。皆さんも、ご家族で食卓をゆっくり、楽しんでみませんか。

防災チェック

～指定避難場所って知ってる？～

子ども：学校に「避難場所」の標識があるけれど、大きな地震があったら、学校に避難すればいいんだよね！

お父さん：そうだね。地震などの大きな災害が発生したときは、小・中学校や高校、大学などが指定避難場所になっているんだよ。公園も指定避難場所になっているところがあるから、調べてごらん。

子ども：うん。じゃあ、全部でいくつあるのか、お兄ちゃん、お姉ちゃんと一緒に調べてみるよ。

お父さん：そうだね。それじゃあ今日は、地震など大きな災害が発生したときのために、みんなで指定避難場所までの安全な避難経路を確認しておこう。

◎皆さんのご家庭では、災害時における指定避難場所や、安全な避難経路を決めていますか？家族みんなで指定避難場所と避難経路を確認してみましょう。指定避難場所は、出張所等にある防災マップまたは市ホームページ（アドレスは表紙参照）でご覧になれます。

問い合わせ　危機管理課（☎2998-9399・FAX2998-9042）

誰でもエッセイ

テーマ　就職

就職

三ヶ島・杉村　キミ子

都会育ちの私は、１年足らずの間に起きた主人の召集・疎開・出征・戦死と目まぐるしい出来事に遭遇しました。

母とまだ3歳にならない男の子と私の3人暮らし。母の妹の嫁ぎ先での生活という心細い現状。でも、焼け野が原となった大阪へ帰るのも不可能でした。

60年前の農村では、就職などについては本人の能力うんぬんというより、家柄とか身内の知名度によって決まるような感じでした。農家でのお手伝いなどをして、心細い日を過ごしていた私に、農協の方が思いがけず、「一緒に働かないか」と声を掛けてくださいました。本当にうれしいことでした。

それから定年までの18年余り、全力投球の毎日でした。あのときを振り返ると感謝のひと言につきます。

転石

和ヶ原・山ノ井　義治

「すまじきものは宮仕え」と、古人も言った。

勤めるということは、気苦労の多いものである。仕事の重さと対人関係の厳しさは、同じ比重ではなかろうか。

人生も後半となり、顧みれば、懐かしさとほろ苦さが相半ばする。遠距離通勤や派閥関係、倒産などの理由で２度転職した。その時々には、やむにやまれぬ事情で決意したのだが、振り返れば「あのとき、もう少し我慢していれば…」と、いささか悔いもある。

隣の芝生は、とかくきれいに見えるものである。「転石苔を生ぜず」という。縁あって就職できた最初の勤務先で、まずは一生懸命に、精励することが大切だと思う。

信念を持って…

東狭山ヶ丘・佐竹　満秀

「君みたいな人は初めてだよ」と、面接官から驚きの言葉をもらったのは、もう15年前。バブル絶頂期だった当時、大学４年生だった私は、毎日、就職活動に明け暮れていた。

ある企業の面接会場で私は、「御社から内定をいただいたとしても就職活動を続け、自分が納得できる会社を選びたいと思います」と言いのけたのだった。

「御社が第１志望です」というマニュアル的な発言をしなかったその正直さを評価していただき、結果は採用内定。

現在の厳しい経済状況では、「あまい」と言われ、こんな態度は決して通用しないだろう。しかし、厳しい状況だからこそ、しっかりとした信念を持つことが大切だと思う。

そんな私は、面接での発言どおり、別の会社を選ぶ結果となった。内定をくださった会社には、申し訳ないと今でも思っているが、その分まで今の会社で一生懸命働くことが、恩返しになると思っている。

「ありがとう」のひと言

東所沢・勅使河原　亜矢

永久就職をしたのは、23歳のときだった。すぐに一児の母となり、忙しい日々を過ごしている。

会社への就職なら有給休暇や昇給などがあるが、結婚となるとそうはいかない。毎日の掃除・洗濯・料理などの家事と子育ての中心で、家族からは、「やって当然」と見られがち。

嫌だなあと思うこともあるが、何気なくかけてくれる「ありがとう」のひと言で、「幸せなんだなあ」と思う。

次回のテーマは『ストレス解消法』です

▶「誰でもエッセイ」ではテーマに㊟必着▶住所・氏名・年齢・電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木１-１-１　所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係　そった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「ストレス解消法」▶締め切りは５月６日◎お便りお待ちしています。